

〔研究ノート〕

## 大阪経済大学心理臨床センターにおける GBOM 導入の試み

鵜飼 奈津子  
堀 内 瞳  
山 下 浩 太

### (I) はじめに

子どもと思春期の青年とその家族のための英国の公的精神保健専門外来クリニックである、子ども・思春期精神保健サービス (Child & Adolescent Mental Health Service, 以下 CAMHS)<sup>1)</sup> において、様々な形で提供されるサービスの効果を測定するために独自に開発された、Goal Based Outcomes Measure (Law, D., 2009, 以下, GBOM) がある。これを、CAMHS において提供される子どもの精神分析的心理療法の効果の測定のために使用する調査・研究が始まっており、その現状については先に報告したとおりである (鵜飼 2014)。そこでは、Emanuel らのグループ (2013) がこの測定法を用いる際に、心理療法の「目標」を基本に置くのではなく、「目的」を基本として測定することを提案し、その使用を開始したことについても触れた。また、「目標」ではなく「目的」という言葉の選択に関しては、「心理療法によって具体的に何をどうするのか」といった「目標」ではなく、どうして心理療法に取り組むのか、心理療法から何を得ることを期待するのかといった、心理療法を受けることそれ自体についての「目的」をより重視 (Emanuel, 2013) するものであると考え、本学の心理臨床センターでの試みの可能性についても検討した。

本論では、2014年4月からその運用準備に取りかかった現時点までの経過について報告する。

### (II) 日本語版 GBOM フォームの作成と、並行して用いる指標の選定

#### (i) 日本語版 GBOM フォームの作成

英国において GBOM を開発した Law より、その日本語版作成および運用の許可を得て、図1～2の通りこれを作成した。

---

1) 英国全土で70か所以上ある。

**目的/目標到達評価**

1回目：平成 年 月 日    2回目：平成 年 月 日

氏名： 姓 \_\_\_\_\_ / 名 \_\_\_\_\_    担当者： \_\_\_\_\_

この用紙に記入できない場合は、その理由を明記し、そのまま提出のこと。

継続セラピー合意時点で、クライアント/家族と同意した目的/目標。

目的/目標1

その目的/目標の達成がどの程度か、もっとも近い番号を○で囲んでください。

	少しも達成していない			半分程度達成している				達成した			
1回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

目的/目標2

その目的/目標の達成がどの程度か、もっとも近い番号を○で囲んでください。

	少しも達成していない			半分程度達成している				達成した			
1回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

目的/目標3

その目的/目標の達成がどの程度か、もっとも近い番号を○で囲んでください。

	少しも達成していない			半分程度達成している				達成した			
1回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

図 1

下記の選択肢の中から一つ選び、チェックを入れてください〔2回目のみ〕

④ 相談終了。目的/目標を再評価する前に、ケースを終了とする。

⑤ 同じ目的/目標で継続し、6ヶ月後に再度評価する。

⑥ 当初の目的/目標はもはや適切ではないので、新しい目的/目標を設定したい。

(④ の場合のみ) 今回、クライアント/家族と同意した目的/目標。

目的/目標1

現時点で、その目的/目標の達成がどの程度か、もっとも近い番号を○で囲んでください。

	少しも達成していない			半分程度達成している				達成した			
2回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

目的/目標2

現時点で、その目的/目標の達成がどの程度か、もっとも近い番号を○で囲んでください。

	少しも達成していない			半分程度達成している				達成した			
2回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

目的/目標3

現時点で、その目的/目標の達成がどの程度か、もっとも近い番号を○で囲んでください。

	少しも達成していない			半分程度達成している				達成した			
2回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
3回目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

(④、⑤ の場合のみ) 3回目予定：平成 年 月 日 (治療開始時から12ヶ月以内で)

Hortfordshire Partnership NHS Foundation Trust of  
Duncan Law の許可を得て日本語版を作成した。

図 2

図 1 および図 2 は、表裏 1 枚のシートになっており、英国で行われている手続き同様に、子どもと親の担当者が、子どもと親と話し合いながら、記入するようになっている。

また、対象者の現時点での問題、あるいは抱えている困難等について把握できるよう、やはり英国の CAMHS において調査・研究のために用いられている、クライアント情報収集のための簡便なシートについても、表裏 1 枚のシートとして訳出し、大阪経済大学心理臨床センターでの使用に適切だと考えられる項目の取捨選択などの改変を行った (図 3、図 4)<sup>2)</sup>。

(ii) 並行して用いる指標の選定

さらに、CAMHS における実践では、Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ: Goodman, 1997; Goodman, Ford, Simmons, Gatward& Meltzer) や Children’s Global Assessment Scale (CGAS: Shaffer et al., 1983) などの標準化された指標を同時に用いることで、GBOM で明らかになる心理療法の目的の達成度合いと、子どもの状態の実際の変

2) Improving Access to Psychological Therapies (IAPT): Children and young people’s tracking outcomes. Resource Pack Version 1.4 -87.Practitioner Resources -89.Demographics

ケースNo ( ) GBM対象者用

氏名: (男/女) 生年月日: 昭和/平成 年 月 日

二次利用のための同意: (あり/なし) 市区: 市( )区( )

主治医: (あり/なし) その他の関係機関( )

担当者: センター常勤/非常勤/研修員/M2/M1 申込受理日: 平成 年 月 日

相談期間: [開始日]平成 年 月 日 ~ [終了日]平成 年 月 日

来談経緯: \_\_\_\_\_

方針と投薬状況

方針

クライアント中心療法  EMDR

認知行動療法  家族面接

統合・折衷的アプローチ  アートセラピーなど

精神分析的心理療法  ペアレントトレーニング

集団療法  その他(具体的に: )

親子並行面接

投薬

睡眠薬  抗躁鬱薬  塩酸メチルフェニデート

抗不安薬  抗精神病薬注射  (リタリン、コンサータなど)

鎮痛剤  モノアミン酸化酵素阻害薬  モダフィニル

抗精神病薬  その他の抗うつ薬  ニコチン

SSRI  アトモセチン(ストラテラ)  その他

三環系抗うつ薬  デキサンフェタミンソルファ  (具体的に: )

終結

終結理由 (一つだけチェック)

担当者との合意の上で終結  担当者との合意なく終結

中断 (連絡が取れず)  転居

他機関にリファー(具体的に: )

- \* 子ども・青少年および保護者に、必要に応じてSDQ、RCADSやその他のアンケートへの記入を頼むのを忘れていませんか？
- \* 相談開始時に回答してもらった、アンケートetc.の二回目時点(あるいはフォローアップ時点)のものに、回答してもらいましたか？

図 3

現在の問題	全 く な い	少 し あ る	中 程 度 あ る	非 常 に あ る	不 明
1 養育者から離れる不安 (分離不安)					
2 社会的場面における不安					
3 状況によらず不安 (全般的不安)					
4 強迫行為・観念					
5 パニック					
6 外出するのを避ける (広場恐怖症)					
7 特定の事柄を避ける (特定の恐怖症)					
8 反復的な問題行為 (習癖の問題)					
9 抑うつ気分/落ち込み					
10 自殺行為					
11 極端な気分変動 (双極性障害)					
12 妄想的信念や幻覚					
13 薬物およびアルコールの問題					
14 じっと座っていることや集中力の困難 (AD/HDが多動)					
15 問題行動 (CD or ODD)					
16 他者に危害を加える					
17 養育者が子どもの行動管理をできない					
18 トイレに間に合わない					
19 外傷的な出来事による問題 (PTSD)					
20 拒食の問題 (拒食/過食障害)					
21 家族関係の問題					
22 養育者との愛着の問題 (愛着障害)					
23 仲間関係の難しさ					
24 他者との関係を維持するのが難しい					
25 話さない (選択的健忘)					
26 性別の不快感に関する問題 (性別同一性障害)					
27 説明不能な身体症状					
28 説明不能な発達の問題					
29 自己管理の問題 (医療的管理や肥満)					
30 健康上の問題に対する適応					

セラピー開始前は、黒色で  
 終結時には、赤色で  
を入れてください。

複雑な要因	はい	いいえ	不明
1 公的保護下にある			
2 若年養育者			
3 知的障害			
4 (慢性疲労を含む)深刻な身体的問題			
5 広汎性発達障害(自閉症/アスペルガー症候群)			
6 神経学的問題(チックやトゥレットになど)			
7 福祉サービスが必要とみなされる			
8 虐待(ネグレクト含む)			
9 親の健康上の問題			
10 魔法、くじ			
11 経済的困難			

状況別問題	全 く な い	少 し あ る	中 程 度 あ る	非 常 に あ る	不 明
現在の問題					
家庭で					
幼稚園・学校などで					
地域で					
相談への意欲					
教育/学習					
出席困難					
達成困難					

図 4

化との関連性が検討されている。そこで、本研究においては、既に厚生労働省のホームページ ([http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken07/h7\\_04d.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken07/h7_04d.html)) に公開されているSDQの日本語版を並行して用いることに決めた。

SDQは、対象となる子どもの持つ「強さと困難さ」について、本人の行動上の問題や感情の状態等について質問紙により問うものであるが、10才以下の子どもの場合には、子ども本人ではなく、その親が記入することになっている。また、質問紙は、子どもの年齢により、次のように細分化されている。ここでは、その一例を図5(11才以上)~6(10才以下)として示しておく。

(III) 大阪経済大学心理臨床センターにおける GBOM 使用の実際

(i) 方法および目的

Emanuelらが2009年より運用を開始し、2013年時点までの成果をまとめたものを発表しているが(鶴飼 2014)、本学における試みも基本的にはその方法を踏襲することにし

「強さと困難さアンケート」

S11-17  
初回

(厚生労働省ホームページより)

以下のそれぞれの質問項目について、あてはまらない、まああてはまる、あてはまる、のいずれかのボックスにチェックをつけてください(例:☑)。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がほろしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなた自身のご半年くらいのことを考えて教えてください。

お名前: \_\_\_\_\_ 性別: 男 / 女

お誕生日: 平成 \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、おちつきがなく、長い間じっとしてられない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物・ゲーム・ペンなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、ひどくかっとなったり、よくかんしゃくをおこす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、私はたいして一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、だいたいは言われたとおりにする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、心配ごとが多く、いつも不安だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すずんで助ける	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、いつもそわそわしたり、もじもじしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、よくけんかをする。相手を自分の思う通りにすることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、おちこんでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたいは好かれている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、すぐに気が散りやすく、注意を集中できない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、よくうそをついていると言われたり、ごまかしていると言われたりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、他の子から、いじめられたり、からかわれたりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、自分からすずんでよくお手伝いをする(親・先生・子どもたちなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、よく考えてから行動する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、家や学校、その他のところから、自分の物ではないものを持ってきてしまう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、他の子どもたちより、大人という方がうまくいく	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、こわがりで、すぐにおびえたりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は、ものごとを最後までやりとげ、集中力もある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

この他にご意見やご心配事がありますか?

図5-1

全体的に、下記のいずれか1つ以上の領域において困難を抱えていますか?  
: 情緒、集中力、行動、他人との付き合い

いいえ	はい— ちよつとした 困難	はい— 間違いない 困難	はい— 深刻な 困難
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「はい」と答えた場合、それらの困難に関する以下の質問にもお答えください。

●それらの困難はどれくらい続いていますか?

1か月未満	1~5か月	6~12か月	1年以上
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●それらの困難によって動揺したり、悩んだりしていますか?

全く あてはまらない	少だけ あてはまる	まあ あてはまる	かなり あてはまる
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●それらの困難によって、以下の領域での日常生活は妨げられていますか?

全く あてはまらない	少だけ あてはまる	まあ あてはまる	かなり あてはまる
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●それらの困難によってあなたの周囲の人々(家族、友人、先生など)は苦勞していますか?

全く あてはまらない	少だけ あてはまる	まあ あてはまる	かなり あてはまる
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

署名: \_\_\_\_\_

日付: 平成 \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

ご協力どうもありがとうございました。

・Robert Goodman 2006

図5-2

た。なお、本研究の対象となった者には、あらかじめ本研究のために得られた個人情報、個人が特定できない形でデータのみを集積することについての説明を行い、その許可を書面で得る。

- ① 第1回目のGBOMフォームの記入は、心理療法の開始から遅くとも3回目のセッションまでに行う。年少の子どもについては、親面接者と子どもの担当者との話し合いの中で、親が子どもの心理療法の目的を同定する。年長の子どもの場合には、担当者と共に本人が目的を同定するが、その際、それを親と共有するかどうかは本人と担当者の話し合いで決定する。
- ② 第2回目以降のGBOMフォームの記入は、心理療法の開始から約6ヶ月ごとに振り返り面接を行い、その際に第1回目に記入した目的の達成度について評定する。その際、心理療法の目的の内容そのものについても振り返り、それらを同定しなおす可能性も視野に入れておく。また、心理療法の終結時にも必ず評定を行う。
- ③ クライエントの情報収集シートは、心理療法の開始時と終結時に担当者が記入する。
- ④ SDQについては、GBOMフォームと同様に、心理療法の開始時、および6ヶ月後と、

「子どもの強さや困難さアンケート」  
(厚生労働省ホームページより)

P4-16  
初回

以下のそれぞれの質問項目について、あてはまらない、まああてはまる、あてはまる、のいずれかのボックスにチェックをつけてください(例 ④)。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのお子さんのここ半年くらいの行動について答えてください。

お子さんのお名前： \_\_\_\_\_ 性別： 男 / 女  
 年齢： \_\_\_\_\_ 性別： \_\_\_\_\_  
 お子さんのお誕生日： 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
他人の気持ちをよく気づかう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
落ち着きがなく、長い間じっとしてられない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
頭がいたい、お腹がいたい、気持ち悪いなど、よくうったえる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
他の子どもたちと、よく分け合う(おやつ・おもちゃ・鉛筆など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カッとなった時、かんしゃくをおこしたりする事がよくある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
一人でいるのが好きで、一人で遊ぶことが多い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
素直で、大体は大人の言うことをよく聞く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
心配ごとが多く、いつも、不安なようだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
いつもさわさわしたり、もじもじしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
仲の良い友だちが少なくとも一人はいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
よく他の子どもとけんかをしたり、いじめたりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
おちこんでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
他の子どもたちから、だいたいはお好かれているようだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
すぐに気が散りやすく、注意を集中できない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目新しい場面に直面すると不安ですがりついたり、すぐに自信をなくす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
年下の子どもに対してやさしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
よくうそをついたり、ごまかしたりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
他の子から、いじめの対象にされたり、からかわれたりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自分からすんでよく他人を手伝う(親・先生・子どもたちなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
よく考えてから行動する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家や学校、その他から物を盗んだりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
他の子どもより、大人という方がうまくいこうようだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
こわがりで、すぐにおびえたりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ものごとを最後までやりとげ、集中力もある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

この他にご意見やご心配事がありますか？

裏面をご覧ください。裏面にもいくつかの質問があります。

図6-1

全体的に、お子さんは、下記のいずれか1つ以上の領域において困難を抱えていると思いませんか？  
 : 情緒、集中力、行動、他人との付き合い

いいえ	はい- ちょっとした 困難	はい- 間違いなく 困難	はい- 深刻な 困難
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「はい」と答えた場合、それらの困難に関する以下の質問にもお答えください。

●それらの困難はどれくらい続いています？

1か月未満	1~5か月	6~12か月	1年以上
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●それらの困難によってお子さんは動揺したり、悩んだりしていますか？

全く	少しだけ	まあ	かなり
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
あてはまらない	あてはまる	あてはまる	あてはまる

●それらの困難によって、以下の領域でお子さんの日常生活は妨げられていますか？

全く	少しだけ	まあ	かなり
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
あてはまらない	あてはまる	あてはまる	あてはまる
家庭生活	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
友人関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学校の授業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
余暇活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●それらの困難はあなた自身や家族全体にとって負担になっていますか？

全く	少しだけ	まあ	かなり
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
あてはまらない	あてはまる	あてはまる	あてはまる

署名： \_\_\_\_\_ 日付：平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

ご回答くださったのはあなたですか(○をつけてください)  
 母親 / 父親 / その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

ご協力どうもありがとうございました。

© Robert Goodman 2006

図6-2

また終結時に、対象となる子どもの年齢に応じて、親または本人に記入してもらう。

このようにして、①~④までの手続きで得られたデータの集積を行い、心理療法の目的の達成度(GBOM フォームより)と、それが子どもの実際の生活の中での行動や感情状態の変化等(SDQ より)とどのように関連があるのかを検討することを本研究の目的とする。

(ii) 対象

継続的な心理療法を開始する際には、改めて担当者子ども、および家族が心理療法のための治療契約を結ぶことになる。そこで、基本的には、心理臨床センターにおいて、発達相談サービス(鶴飼, 堀内2013)の全5回の面接の後に、継続的に心理療法を受けることを勧め、またそれを了承した子どもと家族を対象とすることにした。この時点でGBOMを取り入れることが心理療法についての動機づけの再確認としても機能すると考えられるためである。

(iii) 事例

ここまでの準備段階を経て対象となった2つの事例について、以下にその概略を提示す

る。

#### ① 保育園年中女児A

Aは保育園や家庭での問題行動や人間関係がうまくいかないことを主訴に、他機関からの紹介で来談に至った。発達相談サービスの初回面接時には、担当臨床心理士（堀内）と積極的にかかわろうとはせず、しっかりと遊ぶことができなかった。しかし、面接回数を重ねるにつれ、断片的にはあるが、玩具を通して自身のことを表現するようになり、堀内とのやりとりも増えていった。こうしたAの様子から、心理療法で安定したかわりをもつことがAの成長にとって有益であると考え、両親に継続的な心理療法を行うことを提案した。また、両親も家庭内でのAとのかかわりについて、保育園とも相談しながら工夫をしていこうという積極的な思いを表明し、すでに発達相談サービスの5回の面接経過中からAに対する対応に変化を見せ始めていた。

GBOMは、現時点で問題となっていると考えられるAの行動や情緒面のつまづきについて、5回の発達相談サービスの中から明らかになってきた事柄3点につき、鵜飼、堀内、および陪席していた大学院生がまとめた。それを心理療法開始時点で、子どもの心理療法を担当することになる堀内と、親面接の担当者となる大学院生が両親と共有し、スコアをつけた。また、SDQに関しては、両親に記入してもらった。

#### ② 小学校低学年男児B

Bは親との関係から、暴力的なふるまいや問題行動を主訴に他機関からの紹介で来談に至った。Bは発達相談サービスではなく、堀内と大学院生が心理臨床センターの一般相談事例として家族やBのアセスメントを行っていた。長期にわたるアセスメント面接の後、相談当初の主訴である暴力的なふるまいや問題行動は落ち着きを見せていたが、アセスメントの中で見られた、何か困難が生じた際に関係性から離れてしまうことや、不安が強いため落ち着いて物事に取り組むことができないこと、また他者の行動を迫害的に受け取ってしまう傾向があることなどを両親と共有し、心理療法を開始することになった。

GBOMは、親面接の担当臨床心理士（心理臨床センター職員）が両親との面接の中で共にBの問題について検討し、まとめた。その際、両親は、スコアについてはさらに十分に検討した上でつけたいということであったため、1週間後の面接時につけた。また、SDQに関しては、両親に記入してもらった。

### (IV) お わ り に

このようにして、本学の心理臨床センターにおけるGBOMフォームを用いた心理療法の効果測定を開始した。今後は、できるだけ多くのデータを集積することを目指したい。ただ、対象者は、発達相談サービスを経ているなど、心理療法のためのアセスメントをしっかりと行った上で、子どもと親の双方に心理療法を受けることに対する動機が明確である者（英国の子どもの心理療法の実践では、これが標準である）に限ることとする。

文献

- Emanuel, R. (2013) The Importance of AIM-BASED outcome monitoring. In ACP Bulletin, No 248
- Emanuel, R., et al. (2013) Implementing an aim-based outcome measure in psychotherapy service. In Clinical Child Psychology and Psychiatry. DOI: 10.1177/1359104513485081
- Law, D (2011) Goals and Goal Based Outcomes. Hertfordshire Partnership NHS.
- 鵜飼奈津子・堀内瞳 (2013) 大阪経済大学における発達相談サービスの試みータビストック・クリニックアンダーファイブカウンセリングをモデルにー 大阪経大論集63(6)
- 鵜飼奈津子 (2014) 英国における子どもの精神分析的な心理療法の調査・研究の展開ーGBOMの導入ー 大阪経大論集65(1)

(付記)

本研究は、2014年度大阪経済大学特別研究費を受けて行われたものです。